

## 7月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和元年7月1日(月)9時30分～10時30分
- 2 場所 本庁舎3階 第一会議室

- 3 出席者 <報道機関>  
朝日新聞社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)  
NHK 南相馬報道室(南相馬記者クラブ会員)  
河北新報社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)  
毎日新聞社南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)  
読売新聞社南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)  
福島民報社南相馬支社(南相馬記者クラブ会員)  
福島民友新聞社相双支社(南相馬記者クラブ会員)  
福島中央テレビ(FCT)  
みなみそうまチャンネル

計 9 社

### <市側>

市長 林副市長 松浦副市長 教育長  
小高区役所長 鹿島区役所長 総務部長 復興企画部長  
市民生活部長 健康福祉部長 こども未来部長  
経済部長 経済部中目理事 経済部笹野理事 建設部長  
総合病院事務部長 教育委員会事務局長

計 17 人

(司会進行)秘書課長  
(会議記録)秘書課広報広聴係

### 【市政報告】

皆様おはようございます。

本日はお集まりいただきありがとうございます。

それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。

はじめに、前回の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

まず、JR常磐線の早期全線運行再開に向けた要望活動についてです。

6月11日に福島県鉄道活性化対策協議会と、浜通り地方の13市町村長で構成する常磐線活性化対策協議会及び浜通り地方の市町村議会や経済団体の代表によりJR常磐線の一日も早い全線運行再開と直通の特急列車の運行について、国土交通大臣、復興副大臣、JR東日本水戸支社長へ要望書を提出してまいりました。

引き続き、要望事項の早期実現に向けて、取り組んでまいります。

6月26日に事業再開・帰還促進プレミアム商品券の購入申し込みを締め切りました。

現在、購入希望冊数を集計中ですが、発行冊数を越えた場合は、昨年度同様、抽選となる見込みです。

ご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

次に、(仮称)小高スマートインターチェンジの早期事業化に向けた要望活動についてです。

過日、東北地方整備局長へ要望書を提出してまいりましたが、6月27日に(仮称)小高スマートインターチェンジ整備促進協議会の副会長である市議会議長と、小高区行政区長連合会長と共に、国土交通大臣へ要望書を提出してまいりました。

今後も、引き続き、新規事業採択に必要な実施計画書の熟度を高め、地区協議会の設立・開催など、準備を進めてまいります。

次に、第3回市議会定例会についてです。

6月28日に閉会した第3回市議会定例会においては、議案24件、報告8件について議決を賜りました。

本会議あるいは委員会において議員の皆様よりいただいたご意見、ご提言を真摯に受け止め、今後の市政運営に反映してまいります。

次に今後の予定ですが、7月3日に経済産業大臣をはじめとした関係省庁大臣及び東京電力ホールディングス株式会社代表執行役社長に対して、営業・営農損害に係る賠償の継続を求める要望書を、私、市議会議長、原町商工会議所会頭、鹿島商工会長、小高商工会長及びふくしま未来農業協同組合長の連名で提出して参ります。

次に、7月6日に福島大学研究・地域連携成果報告会が福島大学主催で開催されます。これは福島大学の創立70周年記念事業として開催されるもので、研究や地域連携に関する活動の成果や、地方創生の取り組みについて報告等が行われます。

今回は、本市において実施した県産米の品質と食味に関する研究などの活動報告が予定されていると伺っています。

次に、7月16日ですが、株式会社ダイユーエイトと災害時における物資の供給協力に関する協定を締結します。

詳細については、のちほど復興企画部長より説明させていただきます。

次に、7月20日ですが、9年ぶりとなる北泉海水浴場の海開きが行われます。

海開きに向けての動きとしては、7月5日にホンダカーズ福島の販売会社で組織される福島県ホンダ会の主催でビーチクリーン活動を行う予定です。

海開き当日は、様々なイベントの開催を予定しています。

詳細については、のちほど経済部長より説明させていただきます。

次に、中学生海外研修についてです。

8月2日から6日の日程で、中学生海外研修を行います。

本事業は、中学生18名を派遣するものとなります。

海外研修の実施にあたり、7月15日に第3回事前研修会及び第2回説明会を行い、8月2日に出発式を行う予定です。

詳細については、のちほど教育委員会事務局長より説明させていただきます。

次に相馬野馬追についてです。

今年度は、山頂付近で騎馬と観光客が接触しないように柵を設置するほか、雲雀ヶ原祭場地の改修を行い、騎馬の皆様により安心・安全に相馬野馬追を執行いただけるように対応を行う予定です。

一方で、出場騎馬数が現時点で401騎と年々減少傾向になっていることから、将来的な後継者不足が課題となっています。

今年度の相馬野馬追の概要については、のちほど経済部長より説明させていただきます。

次に、8月1日から小高保健福祉センター内で、市立総合病院附属小高診療所が開所となります。

開所に伴い、小高病院は7月29日から休院となりますので、市民の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

次に、8月3日からとなりますが、市民課窓口で休祝日及び年末年始に行ってきた日直業務を民間事業者へ委託します。

今回の対応により、一層の市民サービス向上に寄与できるものと期待しています。詳細については、のちほど総務部長より説明させていただきます。

私からの報告は以上です。各部長による報告のあと、皆さんからのご質問をお受けいたします。

#### 【各部からの報告】

##### 総務部

- ・日直業務の民間委託移行について

##### 復興企画部

- ・株式会社ダイユーエイトとの災害時における物資の供給協力に関する協定の締結について

##### 経済部

- ・令和元年度「相馬野馬追」の概要
- ・北泉海水浴場の海開きイベントの開催について

##### 教育委員会

- ・令和元年度 南相馬市中学生海外研修事業

【質疑応答】

質問 1 :

中学生海外研修事業について、研修先の選定理由と、参加者 18 名が選ばれた過程を教えてください。

回答 1 : 教育委員会事務局長

研修先の選定理由は、英語圏であること、治安が良いこと、時差が少ないなどが挙げられます。

参加者の選定に至る過程については、応募があった方を面接審査し、決定しています。今回は、結果として応募していただいた 18 名全員が合格となっています。

質問 2 :

相馬野馬追について、昨年度は復興『ありがとう』ホストタウン事業で、ジブチ共和国、台湾の子どもたちを招待したと思いますが、今年はそういった取り組みがあるのかを教えてください。

回答 2 : 市民生活部長

今年度は予定していません。

質問 3 :

今月 12 日で小高区避難解除から丸 3 年が経過するが、行事等を予定しているか教えてください。

回答 3 : 小高区役所長

現時点では予定していません。

質問 4 :

小高区避難解除から 3 年が経過したが、現状と課題、課題への対応等があれば教えてください。

回答 4 : 市長

震災前の小高区の人口は約 13,000 人で、当初、避難解除後の帰還者数目標値を 4,700 人として取り組んでおりましたが、現状は厳しく、目標値を下方修正した上で現在の 3,600 人で目標を達成しているのが現状です。

こういった現状を踏まえ、これからも一人でも多くの人に帰還していただくように取り組んでまいりますが、小高区に新たに入ってきた人への対応や、避難先から戻ってきた人達が、少なくなった人口でかつての生活環境を維持するための新しい仕組み作りが必要と考えています。

具体的な対応としては、元気な高齢者の方々からは、先日の市民説明会で「声をかけていただければ協力したい」とのお言葉をいただいていますので、そうした方々に町の維持や活動にご協力いただくことを考えています。また、保護者ではない地元の方々が小中学校における掃除や給食等へ参画いただく取り組みも進めています。

その他、隣組などのコミュニティ再編や小学校の再編・適正化も協議して進めていきたいと考えています。

質問 5 :

営業・営農に関する賠償について、現状、直面している課題や不安等あれば教えてください。

回答 5 : 市長

賠償についてはその時々で状況が変化しており、東京電力からは一括賠償後も個々の状況に応じて賠償を行っていただくこととなっていますが、現状は厳しいものがあります。

東京電力に対しては、一括賠償が終わったから終わりというものでは無く、営業・営農に関する厳しい現状を見ていただき、個々の状況に応じた賠償を行っていただきたいと考えています。また、最近ではADRの拒否も増えてきています。こちらについても、和解案を尊重して欲しいと考えています。

質問 6 :

復興創生期間が後 2 年経たずに終わる予定であり、復興庁の後継組織も決まっていない現状において、復興創生期間終了後、国に対して市として継続して支援いただきたいもの、新たに支援を要望したいものなどがあれば教えてください。

回答 6 : 市長

原発の被害についてはまだ何も終わっておらず、ようやく緒に就いたという状況と認識しています。

震災被害のうち、津波・地震の被害については防潮堤や防災林、災害公営住宅などの対応が行われ、復興創生期間の 10 年間で良いところまで進むと考えています。

例外は、農地復旧・大区画化です。現在、ほ場整備事業を進めていますが、ようやくスタートを切れるという状況であり、復興創生期間を超えてしまうものがほとんどだと考えています。

また、原発被害についても、避難解除からようやく 3 年経過したというところで、戻ってきていない人も多く、まだまだこれからという感覚です。

一方で、小高交流センターの開所や、医療機関、商業店舗の再開に関して国の支援なども行われるなど、解決に向けてスタートは切れていると考えています。ただ、支援が終わっていいとは考えていません。そもそも人も戻ってきておらず、戻ってきた人々も困っていることが多いという状況ですので、生活環境の維持に関する支援をこれからも要望していきたいと思えます。

質問 7 :

相馬野馬追について後継者不足という話があったが、今年の出場騎馬数は過去最少となるのか、また、初陣の数についても教えてください。

回答 7 : 経済部長

震災直後の平成 23 年度は申し込み 79 騎、出場数 82 騎、平成 24 年度は申し込み 404 騎、出場数 386 騎となっています。初陣数は手持ち資料がないため、会議終了後に別途回答いたします。

補足 7 : 市長

震災前のピークは 500 騎越えており、震災後も順調に伸びてきていたのでこのまま増加していくことを期待していましたが、今年度減少となったことから、後継

者などの課題について色々と考えて行きたいと思います。

質問 8 :

相馬野馬追の後継者不足に関する市としての具体的な方策があれば教えてください。

回答 8 : 市長

例えば、神旗争奪戦は技術が必要となるため熟練した人しか参加できないといったことや、鎧・馬具などの手配をするにしても何を揃えるべきか分かり辛いといった話が出てきています。そういった参加に向けたハードルを下げるために、分かりやすく見える化を行うなどの方策が考えられます。詳細については騎馬会と相談して進めていければ良いと考えています。

質問 9 :

ユネスコ無形文化遺産の登録に向けた動きを教えてください。

回答 9 : 市長

文化遺産の登録については、自治体単体での登録ではなく、類似の行事をグループで登録する形に方針が変わっています。そのため、国内で同様の馬事文化・行事のある自治体と連携し、グループでの登録を目指す方針としており、その目標に向けて、相馬野馬追保存会において、相馬野馬追保存伝承基本方針を定め、位置づけを明確にしたところとなります。

質問 10 :

日直業務を民間委託することでサービス向上につながると話があったが、どのようにサービス向上につながっていくのかを教えてください。

回答 10 : 総務部長

委託業者が常時土日にいることで、スムーズで間違いの無い対応ができ、サービス向上につながると考えています。

補足 10 : 市長

戸籍や死亡などの届け出については十分にチェックを行い、二度手間とならないように注意して行っていますが、窓口のプロが受け付けた方が間違い無い対応が可能となります。そういった意味でサービス向上につながると考えています。

質問 11 :

日直業務の民間委託について、職員が通常行った場合と比較した場合、経費としてはどの程度差があるのでしょうか。また、同規模自治体で民間委託を実施しているかどうかを教えてください。市民への負担は増加するのではないのでしょうか。

回答 11 : 総務部長

職員が行った場合の1日4,400円の手当となっています。経費については、手持ち資料がないため、別途お答えします。

県内の同規模自治体の導入事例については、民間事業者へ委託している自治体が4市、一部を民間委託している自治体が5市、直営は当市を含めた3市です。

委託金額については、それぞれの自治体で委託している作業範囲が異なるため、

一概に比較は出来ませんが、二本松市では1,300万円程度です。

補足11：市長

市民負担に関して言えば増えることとなります。ただ、そちらの負担も考慮した上で民間委託を行うものとなります。市の業務としては、土日であっても、確実に届出を受付し、完結させることが基本であり、業務に慣れた人が行うことで来庁者に対するサービス向上につながると考えています。

質問12：

バックボードが変わったが、制作秘話等あれば教えてください。

回答12：秘書課長

以前利用していたバックボードが老朽化してきていたことから交換したものとなります。新しいバックボードは後期総合計画の冊子に合わせたデザインとしています。